

警視庁の指令

「社保庁を

年金を喰い物にしている官僚への怒りは、国民に充満している。その怒りを国民の側に立って「代弁」するのにもわれわれの仕事だ。大して必要もない金銭登録機を、カワグチ技研との癒着の末に大量発注した今回の事件は、年金官僚の罪を構造的に明らかにするのに最適だろう。

『特捜本部』を編成したのは、

現段階では説明できていないキャリア官僚を含む『構造汚職』に踏み込むため。税金で養われている官僚が、年金を喰い物にして私腹を肥やした事件を、中途半端に終わらせるつもりはない。時間がかかっても徹底説明する」

逮捕された渡辺容疑者は、

高校卒業後、'66年に社保庁に採用された。経理課予算班で係長や班長を歴任。総務課長補佐、愛知社会保険事務局長などを経て、'02年4月から今年3月まで年金保険課長。今年4月にノンキャリア職員としては最高の地方課長のポストに就いて、ノンキャリアの星」と称されていた。

金銭の授受だけでなく、川崎容疑者は渡辺容疑者をたびたび接待していた。東京を離れて地方のゴルフ場へ招待したこともあったという。その費用は、宿泊費などを含めて全額、川崎容疑者の負担。'02年夏と'03年初めにはグアム島に泊まりがけのゴルフ旅行に出かけ、この費用も川崎容疑者が負担した。川崎容疑者が渡辺容疑者のために支出したゴルフ旅行費用の総額は100万円を超えていたと見られる。さらに、ゴルフ旅行には社保庁や厚労省の中堅幹部が同行することもあったという。

金銭登録機の独占的な受注は当然、こうした高額接待の見返りと考えられる。

渡辺容疑者は、出入り業者に対して、カワグチ技研から

▲カワグチ技研の川崎義幸・千尋夫妻

みて圧力をかけていた

川崎容疑者が役員を務めていた印刷会社（ニチネン企画）は、社保庁発注のガイドブックの印刷を請け負った。この発注の元請け業者の情報システム会社が、代金の引き下げを下請けのニチネン企画に通告したときのこと。情報システム会社の担当者は、渡辺容疑者から「川崎さんにはいろいろとお世話になっている」「身のほどをわきまえないと、仕事を全部取り上げる」と脅され、委託料の引き下げは中止されたという。

1億円の年収と豪華な年金御殿

一方、贈賄側のカワグチ技研の川崎容疑者は、大学中退後、社保庁や年金福祉事業団の印刷業者に指定されている「フォーム印刷」に入社。旧厚生省・社保庁に対する執拗な営業活動で人脈を広げた。'98年10月には「カワグチ技研」を設立、社長に就任した。

川崎容疑者の納税額は、'02年度で約2000万円。すべて給与所得として試算すると、年収は約6800万円と